

環境活動レポート

対象期間

平成 29 年 10 月～平成 30 年 9 月



環境省

エコアクション21

認証番号 0004894



全ては幸せになる為

豊かな地域づくりに貢献する



NOHARA

野原建設株式会社

発行：平成 31 年 1 月 30 日

～ 目次 ～

◆ ご 挨 拶	-----Pa.2
◆ 会 社 概 要	-----Pa.3
◆ 環 境 方 針	-----Pa.4
◆ 実 施 体 制	-----Pa.5
◆ 環境目標(中長期目標)	-----Pa.6
◆ 環境目標とその実績 〈平成 29 年 10 月～平成 30 年 9 月〉	-----Pa.7
◆ 環境活動計画の内容・取組結果の評価	-----Pa.8
◆ 次年度活動計画	-----Pa.16
◆ 建設業に関わる主な関連法規	-----Pa.17
◆ 代表者による全体の評価と見直し	-----Pa.18

ご 挨 拶

現在、環境問題は早急な対応が必要とされ、地球温暖化、森林破壊、海洋汚染、オゾン層破壊など、個人レベルでの取り組みでは容易に解決できない状況に陥っています。会社全体でエコアクション21に取り組むことにより、社員ひとりひとりが様々な問題の現状を認識するようになりました。

また、環境マネジメントシステムを理解することにより、環境問題を企業の経営に関連付けて考え、環境保全への取り組みに着手していくための道標にしたいと考えています。そして、日々の仕事の中という一番身近な所から「持続可能な社会」への取り組みを考えて行動ができる資質を、社員ひとりひとりが身に付けていけたらと願っています。

社員一丸となってアクションしていくことで、環境に与える悪影響が少ない社会へ向けての新たな行動を起こすきっかけとしていきたいです。さらに、実践を積み重ねていく上で、効果的なアクションについても発信し、一企業として、ミニマムインパクトを紹介していきたいと考えます。

野原建設は標高 750m の自然豊かな山間の地に生まれ、地域の方々に愛されながら 100 年の歴史を歩んできました。自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司



会社概要

【名称及び代表者名】

野原建設株式会社

代表取締役 野原 一司

【所在地】

〒939-2513

富山県南砺市利賀村上百瀬 165

連絡先 TEL 0763-68-2136

FAX 0763-68-2608

E-mail : toga-nk@p1.tst.ne.jp

H P : <http://www.toga-nk.jp/>



【環境管理責任者及び担当者】

環境管理責任者 野原 修実

環境事務担当者 野原 沙也香

【事業内容】

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業、解体工事業

【一般建設業】建築工事業、管工事業、塗装工事業、

【事業規模】

創 業	大正3年8月1日	設 立	昭和52年12月17日
資本金	2100万円	売上高	924百万円 (H30年度)
従業員数	19 名	事業所/倉庫床面積	282㎡ / 484㎡

【認証・登録対象範囲】 全組織・全活動が認証対象範囲とする

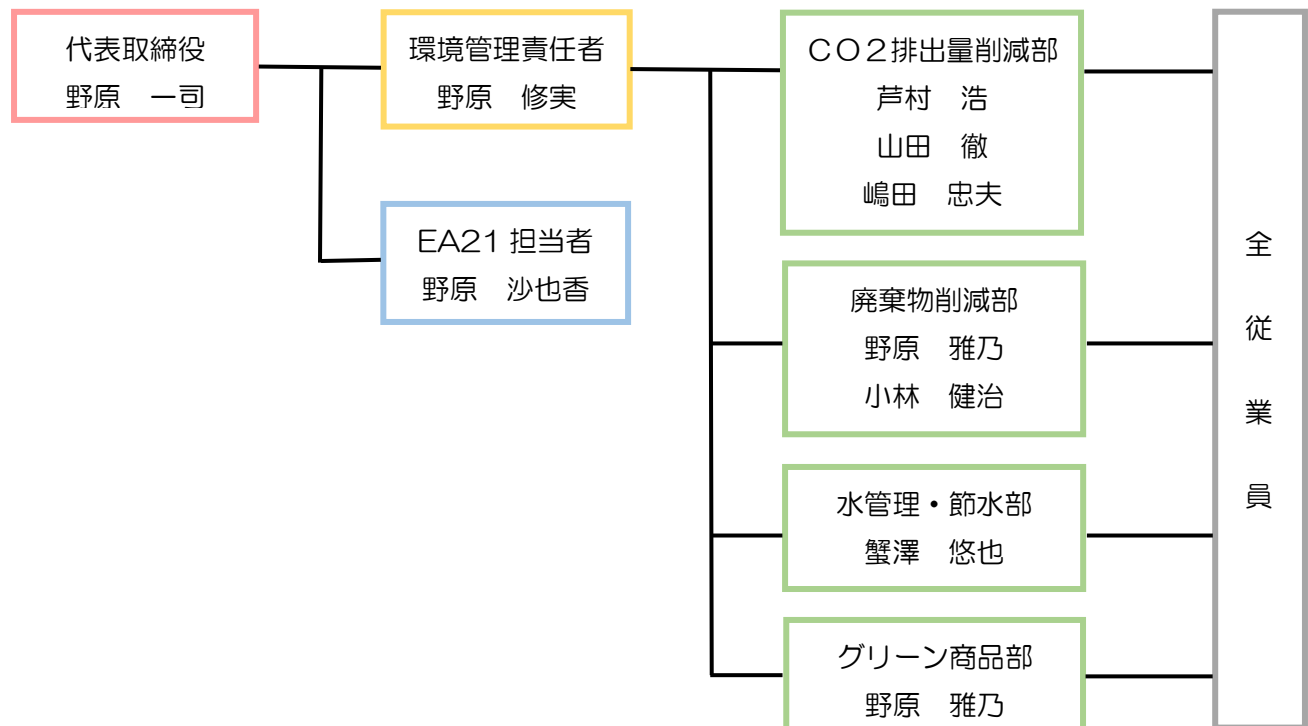
事業所名及び所在地	野原建設株式会社 〒939-2513 富山県南砺市利賀村上百瀬 165
対象事業所	本 社
活 動	建設工事業（一般土木工事、建築工事、道路除雪作業）

環境方針

- (1) 当社の事業活動に関連する環境関連法規を定期的に確認・遵守し、社会的要求事項を進取し地域社会との協調連帯を図ります。
- (2) 環境方針達成を目指し、環境目標・環境活動計画を策定し、全社一丸となって環境保全活動の推進に努めます。
- (3) 全従業員のみならず関係者一同が理解・行動できるよう、環境方針の周知に努め環境教育や啓発に力を注ぎます。
- (4) 以下の項目について取り組みます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
 - ③ 総排水量の削減
 - ④ グリーン購入の推進
 - ⑤ 自らが施工・販売・提供する製品及びサービスの環境配慮
- (5) 環境活動レポートを社内外に公表し、地域社会の一員として社会貢献活動を積極的に推進します。



環境経営システム実施体制



役職	氏名	役割・責任・権限
代表取締役	野原 一司	- 環境経営に関する統括責任 - 環境管理責任者、環境事務局員を任命する - 環境方針の策定・見直し及び全従業員の周知 - EA21 全体の取組状況に関し、評価・見直しを実施する
環境管理責任者	野原 修実	- EA21 の要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し環境実績を向上させる - 環境活動計画書の承認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告
EA21 担当者	野原 沙也香	- 環境管理責任者の補佐 - 環境活動計画書の作成及び実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
部 門 長	芦村 浩	- 自部門における環境方針の周知 - 自部門に関連する環境目標、環境活動計画の実施及び達成状況の報告 - 特定された項目の書類作成及び運用管理 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
	山田 徹	
	嶋田 忠夫	
	小林 健治	
	蟹澤 悠也	
	野原 雅乃	
全従業員	各自	- 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 実施事項を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境目標

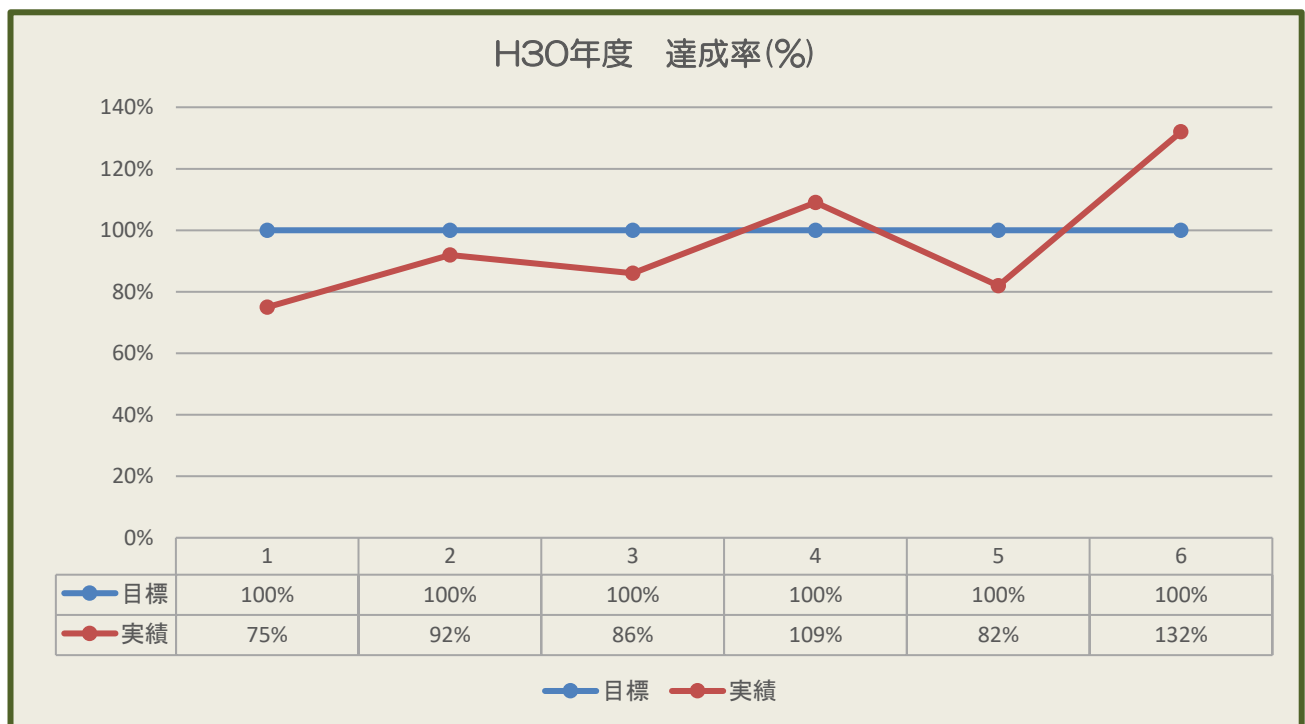
環境方針		年度目標	中期目標	長期目標
二酸化炭素排出量削減	電気	CO2 排出量の維持目標	社内の電力使用箇所の見える化を計り、CO2 の最低排出レベルを維持する	チェックシートの運用・こまめな情報共有で、可能な限りのCO2 排出量を維持する
	ガソリン	CO2 排出量の維持目標	定期的な情報公開を推進すると共に、見える化を計ってエコ運転の意識を高める	
	軽油	除雪工事高あたりのCO2 排出量削減		
廃棄物排出量削減		可燃ごみ排出量削減	ごみ分別の方法や廃棄箇所の表示など、わかりやすい表示を行う	ごみ分別化の徹底
水使用量削減		凍結期間を除いた水使用量の維持目標	節水の情報提供等を積極的に行い、見える化を推進して節水意識を高める	社内の水使用量を把握し、凍結期間を除く通年を通して最小使用量を維持できるよう努める
グリーン商品購入の推進		グリーン商品率先購入（月 1 品以上）	100%再生紙利用率を 100%にし、グリーン商品を率先して使用する	100%再生紙利用率を 100%にし、グリーン商品を率先して使用する
自らが施工・販売・提供する製品及びサービスの環境配慮		社内緑化及び地域ボランティアへの積極的な参加	地域の特性と資源を活かし、地域の持続可能性の向上に貢献する	地域の特性と資源を活かし、地域の持続可能性の向上に貢献する

（目標設定における維持は過去5年の平均値を目標値とし、+5%までを許容範囲とし、削減は過去5年の平均値を目標値とし、目標値以内の使用量・排出量を目指す）

環境目標とその実績

項目		単位	H21 実績	H30 目標	H30 実績	H30 達成率
二酸化炭素 排出量削減	1.CO2 総排出	kg	296391	289755	386538	75%
	2.電気使用量	kwh	7093	5767	6266	92%
	3.ガソリン使用量	ℓ	23808	18524	21666	86%
	4.除雪高に対する CO2 排出量(軽油)	kg/ 百万円	3713.3	2526.0	2296.6	109%
5.廃棄物排出量削減 (可燃ごみ)		kg	224.85	114.8	139.7	82%
6.総排水量削減 (5月～11月)		m ³	49	45	34	132%

エコアクションの活動継続に伴い更なる削減が難しくなっており、過去5年間の平均を目標値に設定し、低排出レベルの維持に取り組む。



【上記目標に対する評価・総括】

目標達成が出来てない項目が多く、とくにガソリンの使用量と可燃ゴミの廃棄量については、より意識して取り組んでいくことが必要です。達成出来ている項目は継続して取り組み、全ての目標を達成できるように社員一丸となって活動を推進していきたいです。

環境活動計画の内容・取組結果の評価

1. 二酸化炭素排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理

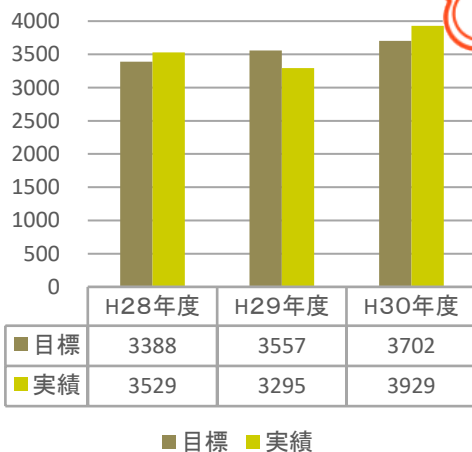
電気部門

【二酸化炭素排出量の削減取組】

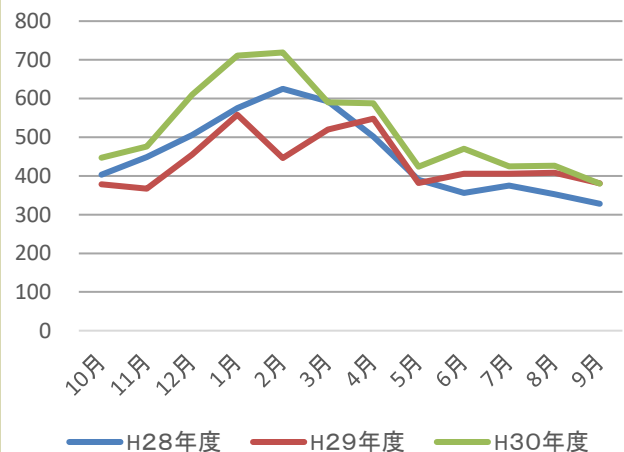


【取組の結果と評価及び次年度の取組】

二酸化炭素排出量推移グラフ



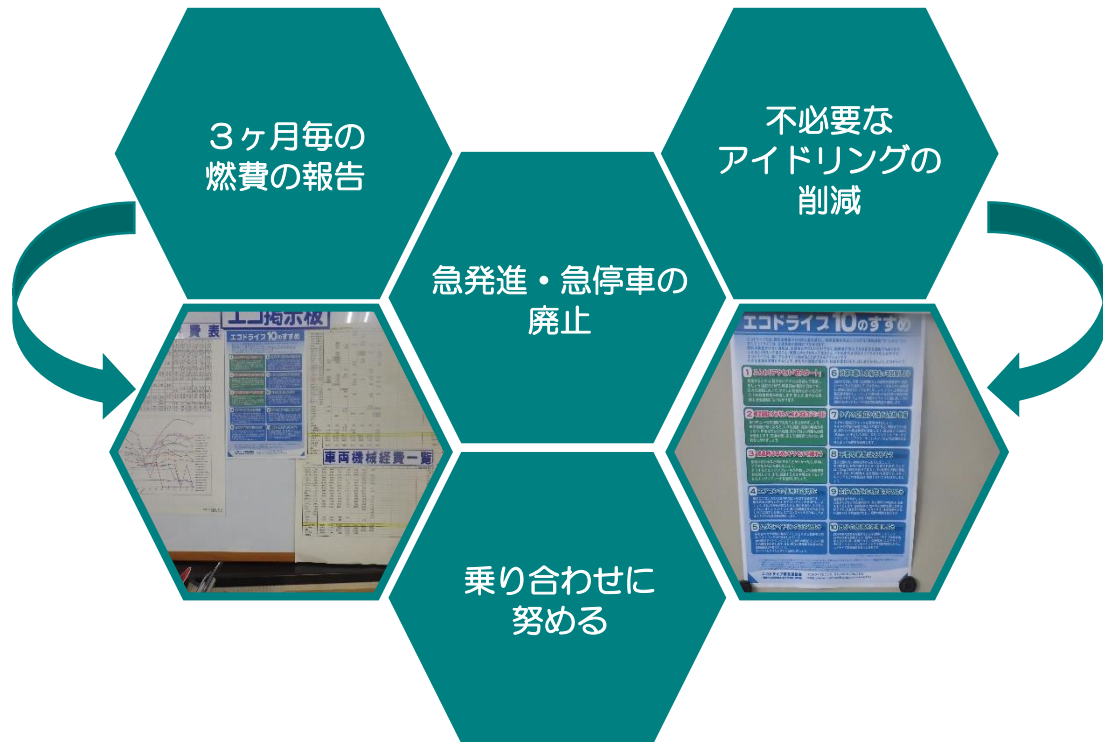
月別電気使用量推移グラフ(kWh)



今年度は、目標を達成するところが出来ず目標値を6%上回る結果となりました。とくに12月から2月にかけて電気使用量が前年と比べて約1.3倍に上がっています。今年の冬は強い寒波に遭い、その分暖房器具の使用頻度が上がってしまったのではないかと考えられます。次年度の取組として、ウォームビズ推奨の呼びかけに伴い電気を使用しないペーパー加湿器を使用し、体感温度を上げることで暖房温度22℃以下設定から20℃設定推奨に切り替え二酸化炭素排出量削減に取り組みたいです。

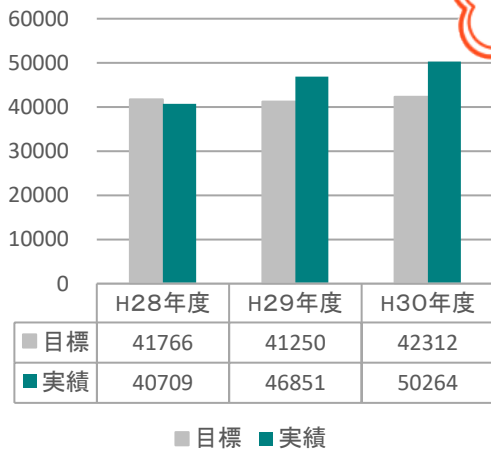
ガソリン部門

【二酸化炭素排出量の削減取組】

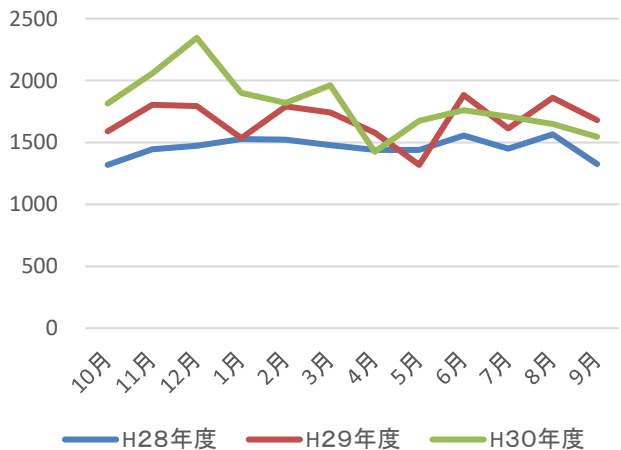


【取組の結果と評価及び次年度の取組】

二酸化炭素排出量推移グラフ



月別ガソリン使用料推移グラフ(e)



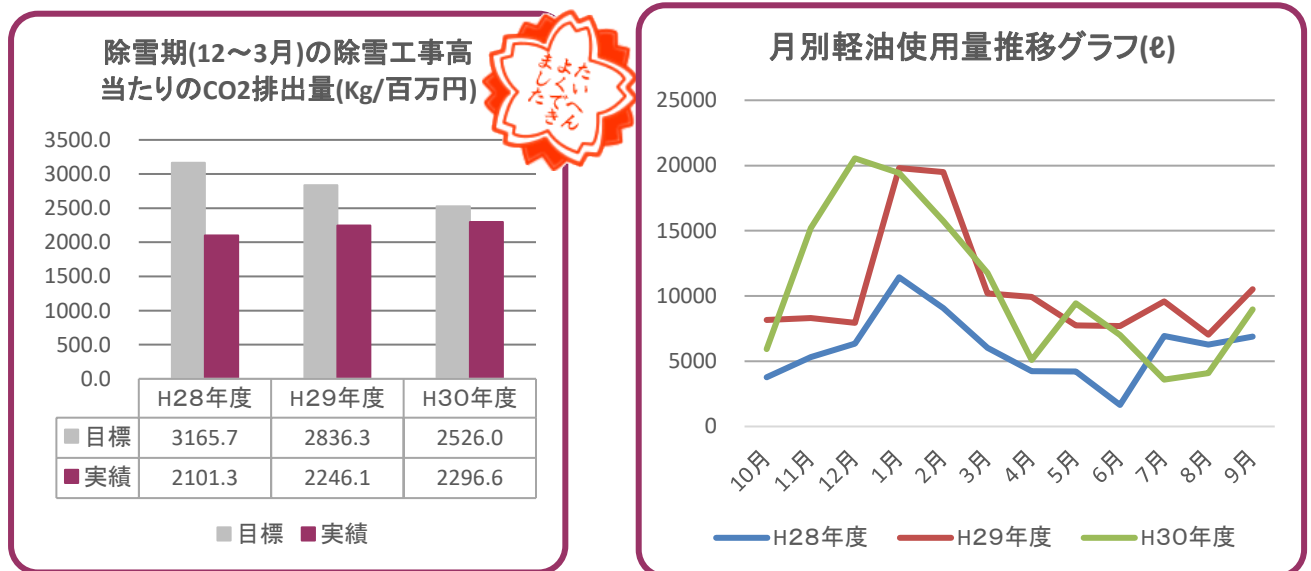
今年度は、目標を達成することが出来ず目標値を約 19%上回る結果となりました。12 月はとくに使用量が多く、新たなパトロール業務が加わった為、ガソリン使用料が増加しています。但し、全体的に増加傾向にあるので可能な限り乗り合わせでの行動や引き続きエコドライブの意識を高める必要があると考えます。次年度の取組として、仕事量の増加に伴う使用料の増加は仕方ないが、その分利用車両の給油量と走行距離を把握し、車両ごとの燃費を社員に公開することで「見える化」を計りエコ運転の意識を高めていきたいです。

軽油部門

【二酸化炭素排出量の削減取組】



【取組の結果と評価及び次年度の取組】



※工事の件数・規模に応じて変動が激しい為、作業量に応じて工事高が変動する比較しやすい除雪期(12月～3月年間軽油使用量の50%以上を占める)の除雪工事高当たりのCO2排出量で評価します。

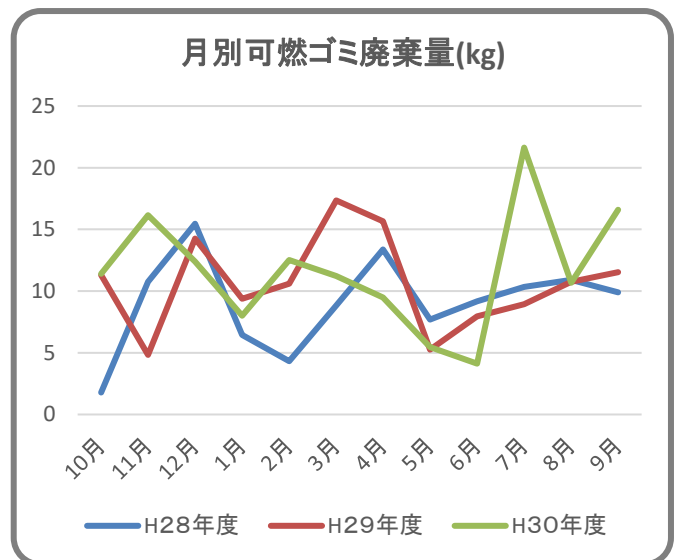
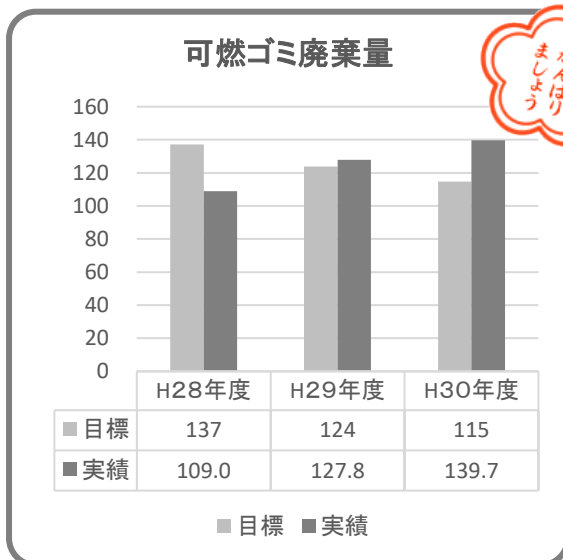
今年度も目標を達成することが出来ました。前年と比べ、12月から多くの雪が降り真冬並みの使用量となったが、除雪オペレーターへのエコ運転の周知が出来ていた為、前年と変わらぬ実績を維持できています。しかし、目標値とはほぼ同程度の為、今後達成が難しくなっていくでしょう。その中でしっかりとした取組みの周知及び管理の継続に努めていきたいです。

2. 廃棄物排出量の削減(可燃ごみ)

【廃棄物排出量の削減取組】



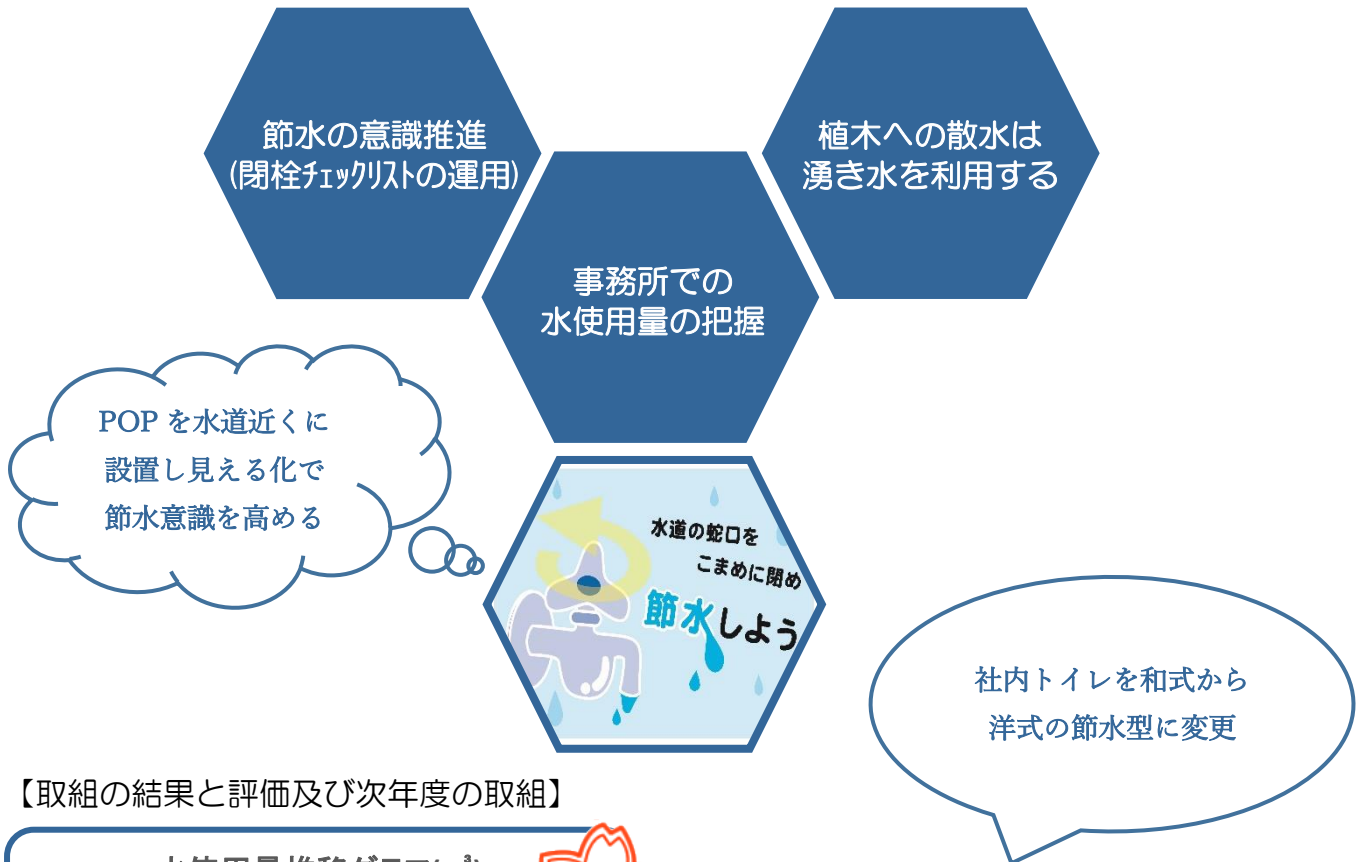
【取組の結果と評価及び次年度の取組】



今年度は、目標を達成することが出来ず、目標値を21%上回る結果となりました。7月から9月にかけて廃棄量が急激に増加している要因として、コピー機の不具合による印刷ミス及び社内整理時に出てきた資料の廃棄によるものとなります。コピー機においては定期的なメンテナンスを心掛けて使用していきたいです。次年度の取組として、引き続き裏紙の再利用やゴミの分別のし忘れがないよう呼び掛けていきたいです。

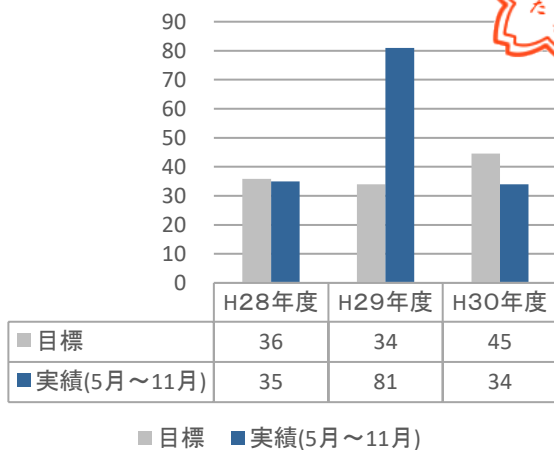
3. 水使用量の把握と節水努力の維持及び管理

【水使用量の削減取組】



【取組の結果と評価及び次年度の取組】

水使用量推移グラフ(m³)



※12月～4月は水道凍結防止の為、排水を常時行うので実績に反映されません。

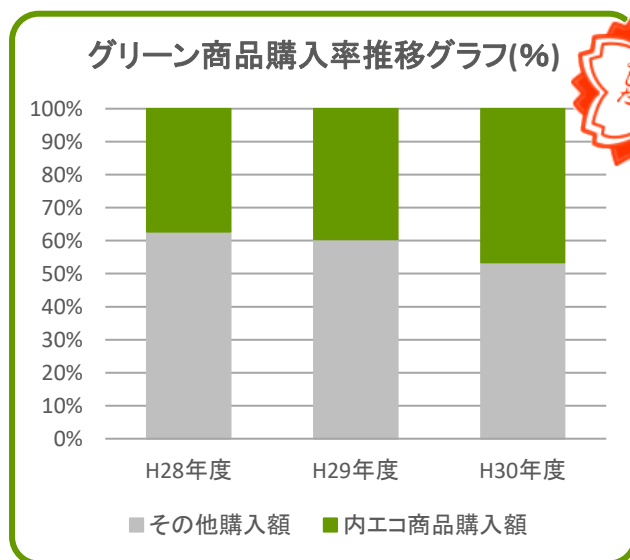
今年度は目標を達成できましたが、前年度の実績に水漏れがあった為、正確な5年平均の目標値となっていないのが残念です。しかし、平成28年度の実績と比べると今年度の実績の方が節水を行っているため、社内での周知がしっかりと行き届いていることは明らかです。次年度の取組として、引き続き水道閉栓チェックリストを活用し閉め忘れ防止に心掛けていきたいです。

4. グリーン商品購入の推進

【グリーン商品使用の取組】



【取組の結果と評価及び次年度の取組】



コピー用紙の100%再生紙利用は継続して行っており、グリーン商品の購入も意識して行えています。よって今年度の全体を通してのグリーン商品購入率は、46.6%という結果が出ており、今年度の取組内容で40%を目指してきたことを考えると非常に良い結果を出すことが出来ました。次年度の取組として、40%台の維持を目標に今後どのようなグリーン商品があるのかアンテナを高くして確認し、積極的なグリーン商品への使用に努めていきたいです。

4. グリーン商品購入の推進(現場)

自らが施工・販売・提供する製品及びサービスの環境配慮

資材名	エコマーク認定番号	再生材利用率	利用状況
面木	06131017	再生プラスチック 78%以上	型枠組立時に通常利用
サンドガード	06105002	再生 PET 繊維 80%以上	フトンカゴ等に利用
ユニット標識 エコユニボード	07118031	再生 PET 繊維 50%以上	工事看板に利用
リサイクル スノーポール		ポリエチレン樹脂 (支柱部にリサイクル材使用)	除雪の目印に利用
プラ擬木	07131003	再生プラスチック 80%以上	金剛堂山登山山道整備工 事に利用
	07131002	再生プラスチック 70%以上	
ライナープレート		再生ポリプロピレン樹脂	自由勾配側溝、大型プロ ック高さ調整に利用



エコ資材
使用例



5. 地域社会と環境の持続可能性向上への貢献



【取組の結果と評価及び次年度の取組】



天空トレイルランコース整備 ↑ →



多肉植物の育成 ↑



会社の室内では、観葉植物や多肉植物を育成し、屋外では春から秋にかけて会社の玄関先に花を植えたプランターを設置することにより会社全体で緑化を計っています。

また地域のボランティア活動においては、清掃ボランティアをはじめ、地域をあげてのイベントである天空トレイルランのコース整備、そば祭り会場のかまくら設営など積極的に参加しています。目標を達成できているので、今後も利賀村の自然と文化を守る活動を継続していきます。

次年度活動計画

環境方針	対象	目標	目標達成手段	目標値
二酸化炭素排出量の削減	電気	CO2排出量の維持目標 ※(目標設定における維持は過去5年の平均値を目標とし、+5%までを許容範囲とする)	- 暖房20度 - 冷房28度設定 - ウォームビズの推奨 - 電源チェックシートの運用	年間使用量 5820(kwh)
	ガソリン	CO2排出量維持目標(※) 燃費の把握とエコ運転の意識の持続	- 急発進・急停車の廃止 - 不要なアイドリング削減 - 車両の燃費を把握	年間使用量 19137(ℓ)
	軽油	冬季の除雪工事高のCO2排出量維持目標(※) エコオペレーション チェックシートの運用	- エコ運転に努める - 低燃費、低排出型車両への移行 - 給油量の報告	除雪工事高あたりのCO2排出量 2326.2(kg/百万円)
廃棄物廃棄量の削減	可燃ゴミ	可燃ゴミの排出量の維持目標(※) 再生可能資源のリサイクル率向上	- 社内、現場のゴミ分別推奨(資源・可燃) - 裏紙、両面印刷の徹底 - 廃棄量の把握	年間排出量 117(kg)
総排水量の削減	水道	凍結期間を除いた水使用量の維持目標(※) 水道使用チェックシートを用いた節水管理 湧水の有効利用	- 水道量の把握及びチェックシートの運用 - 湧水の利用(植木への散水等に使用) ※非凍結期間のみとする	水使用量(非凍結期間) 44(m³)
グリーン商品購入の推進	用品 事務	グリーン商品の率先購入	100%再生紙の購入 - 非グリーン商品の代替品を探す - 購入金額を記録する	100%再生紙利用率 100%維持 グリーン商品購入率 40%台維持
	資材 現場	グリーン資材の利用	- 利用可能なグリーン資材の利用 - 使用した資材のリストアップ	環境配慮を意識し、積極的に活用する
環境配慮	ボランティア	会社の環境美化に努める 地域ボランティアへの参加	- 会社内、前で観葉植物を育成し、環境美化に勤める - 清掃ボランティア等に積極的に参加する	会社の緑化に努める ボランティアへの参加

建設業に関わる主な関連法規等

環境法規制等の名称/略称	該当する活動	評価
環境基本法	自然環境の保全措置	○
グリーン購入法	環境物品購入	○
地球温暖化対策推進に関する法律	温室効果ガス排出の抑制	○
環境配慮事業促進法	事業活動に係る環境情報の提供	○
廃棄物処理法	廃棄物処理委託契約、許可証の確認、マニフェストの保存義務	○
リサイクル法	建設副産物の再利用、再資源化促進	○
建設リサイクル法	分別解体、再資源化促進	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処分	○
オフロード法	基準適正機械の利用	○
消防法(危政令)	第2 石油類軽油等：2000L タンクローリーの保管	○
富山県景観条例	事業活動を通じて地域の景観づくりに寄与	○
南砺市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	廃棄物の適正処理	○
特記仕様書	特記仕様書に準ずる	○

弊社は、建設業に係る環境関連法規（富山県や南砺市の条例も含む）についてすべての適正法令を遵守しており、訴訟もありません。

代表者による全体の評価と見直し

	報告 (環境管理責任者)	コメント・提案 (環境管理責任者)	評価・指示事項・ 変更の必要性(代表者)
取組状況の 評価結果	・環境法規等の順守状況は順守されている。	・継続する。	・継続する。報告書をわかりやすくまとめている。 変更の必要なし。
環境方針	・社内掲示、及び環境会議等により周知し方針に従って行動している。	・継続する。	・継続する。 変更の必要なし。
目標・環境活動計画	・低排出レベルを維持していくための活動目標を設定していく。	・項目ごとの目標と達成手段を一人々に伝えるよう会議等で呼びかける。	・継続する中で、削減が困難な事項もある。維持していく目標設定を検討する。 (10月29日)
その他の環境経営システムの各要素	・環境会議や毎月の各車両燃費の掲示等で、エコ意識を高める。	・継続する。	・継続する。 変更の必要なし。
周囲の変化状況	① 外部からの苦情等 ・無し ② 環境関連法規制・協会等の動向 ・無し	① 苦情等に対応出来るよう継続する。 ② 最新情報を監視し常に最新版にする。	① 苦情が出た場合速やかに対応してください。 ② 会議等で、情報を収集してください。(10月29日) 変更の必要なし